



本日はよくお参り下さいました

雨に映える紫陽花の花がちらほらと咲きだしました。体調を崩しやすいこの季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。暑い日が続いていましたが、このお便りを書いている5月27日現在は、梅雨の前触れを感じさせる雲が空を覆っています。5月21日には、年三回の正五九祭のうちの五月の小祭が行われ、氏子会役員参列のもと国家繁栄、地域発展、氏子崇敬者の益々の健勝を祈るお祭りを行いました。そのあと、総代はじめ役員の方々とテーブルをかこみ世間話をするのですが、毎回さまさまな話が飛び出します。今回は、地域活性化の話になりました。どうしたら駅周辺の利便性が良くなるか若い人たちの意見が聞きたいなど...。そして私はふと思いました。20代30代40代の方々と50代60代以上の方々が、話をする機会、実は少ないのではないかと。子育てママと会社の重役のようなおさまだしたら、なおさらです。設けようと思わなければそういう場はなかなかできません。気軽に声をかけられる関係は、いざというときに心強いものです。町内会が良い例ですが、神社にはお祭りがあります。鎮守様や大好きな神さまのために力をそそぐ。みんなが参加して楽しいお祭りを自分たちの手で作っていく。終わった後は、互いの労をねぎらい称えあう。神さまはそうした姿を喜んで下さるのだと思います。私たちは、つい家庭のことで手いっぱいになりがちですが、地域社会に心を配ることも忘れず、できる範囲で、適材適所で貢献できたら良いですね。今月も皆様のご安寧をお祈り申し上げます。権禰宜道子



6月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈ります。

1日 更衣 気候に合わせて衣服を着替える衣替え。日本人の習慣的なものですが、制度化されたものでもあります。

8日頃 入梅 平年は8日頃ですが、去年は3日でした。今年は何日になるか、気になるところです。

5日 芒種(ぼうしゅ)梅雨入りの前で、昔の田植えの開始期にあたります。農家は田植えの準備などに多忙を極めます。芒種の芒は、芒(ノギ)に通じ、稲や麦などの穀にある針状の毛を指すことから、稲を植え付ける季節を意味しています。

21日 夏至(げし)夏季の真ん中にあたり、梅雨の真っ盛りで、長雨が続きます。農家は田植えに繁忙を極める季節。しょうぶが咲き始め、半夏(からすびしゃく)が生えてきます。

30日 大祓(おおはらえ) 大祓は、我々日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活にいそむよう、自らの心身の穢れ、災厄の原因となる諸々の罪・過ちを払い清めることを目的としています。年に二度おこなわれ、六月の大祓を夏越(なごし)の祓と呼びます。

鶴岡八幡宮ほたる祭り

【ほたる鑑賞期間】6月12日(日)~6月19日(日)日没から~21:00頃まで
初夏の風物詩を、鑑賞されてみてはいかがでしょうか?



天神さまの豆知識
―徳の大切さ―

私たちは、生まれてからいろいろなことを学び、知識をつけ、一人の人間として成長していきます。その中でも特に大切とされているのが、「徳」です。徳というのは、一言で言うところ「均整のとれた精神の在り方」と言えます。徳のない社会は、当然病んでいきます。困っている人を見ても何とも思わない、知らんぷりで通り過ぎる。人としてやむにやまぬ気持ち、正義の裏付けのある言動、これは「徳」の大きな要素です。人としての「やさしさ」「思いやり」も「徳」です。仕事上の能力がいかにあつたとしても、部下への思いやりがなければ信頼されません。尊敬もされません。「冷たい」と称されるような人は、リーダーとして必要な特にかける人です。能力がゼロでいいというわけではありませんが、ほどほどの能力であつたとしても、高い「徳」を備えた人であれば、立派にリーダーがとまります。リーダーに限らず、徳は人として生きるのに最低限欠かせないものです。徳とは人間であることの証明。感謝する、報いる、愛する、尽くす、真面目、誠実、清らか...。徳というのは人間を動物的な生き方と区別する尊いものです。何よりも大切にしなければなりません。

参考『安岡正篤の教え』総合法令
出版株式会社発行



今月の言葉

『心は必ず事に触れて 来たる』

―吉田兼好『徒然草』より―

人の心は無から有を生じない。何かに触発されて考えが生じる。誰もが生まれた瞬間から外界の空気にじかに触れ、音や光や温度を感じ、口にした飲食物で味覚を覚え、周囲の人に接して、さまざま感覚や考えを知っていく。しかし新しいことに触れなければ心は動かなくなる。いろいろな体験が、良きにつけ悪きにつけ、心を動かす。本を読み、音楽を聴き、芸術に触れ人は感動を探す。良い感動は心を豊かにし、幸せを感じさせる。顔は心を映し出す鏡。心豊かな人の表情は明るく美しい。参考文獻『神道のこゝろ』武光 誠 監修 河出書房新社発行

お祭り歳時記

チャグチャグ馬コ 六月十一日

岩手県滝沢市の鬼越蒼前神社から盛岡市の盛岡八幡宮まで

もともとは馬の安息日として日ごろの厳しい作業から解放してやり、労をねぎらう行事です。金銀紅紫の華やかな飾りつけをした愛馬に半天姿の男児や振り袖姿の女兒を乗せ、馬の神さまの鬼越蒼前神社(おにこしそうぜんじんじや)に参拝し、安全と健康を祈願し盛岡八幡宮まで約十五キロを行列して歩きます。その際、飾りの鈴がチャグチャグと鳴り渡ることから、この祭りをチャグチャグ馬コと呼ぶようになりました。